

R6年12月放送分
「日米交流事業について」
(日本の防衛Q & A)
(自衛隊百科)

R6.11.22 収録

【パーソナリティー】

本日は、東北防衛局から2名の職員にお越しいただきました。
まずは、自己紹介をお願いします。

【高橋】

はい。東北防衛局地方協力確保室の高橋と申します。私自身4回目の出演ですが、まだ慣れていません。皆様に分かりやすい言葉でお伝えできるように頑張りますので、よろしくをお願いします。

【荒井】

同じく地方協力確保室の荒井と申します。仙台市出身です。4月に確保室に異動して楽しく業務を行っています。初めてのラジオ出演で緊張していますが、本日はよろしくお願ひいたします。

【パーソナリティー】

はい。よろしくをお願いします。
本日はどのようなテーマのお話でしょうか？

【高橋】

はい、今年7月に実施しました日米の交流事業を中心にお話したいと思います。

【パーソナリティー】

今年の1月の放送で交流事業について高橋さんからお話を伺って、今年はどうだったか気になっていました。早速お願いします。

【高橋】

はい。改めて、東北防衛局で行っている日米交流事業について紹介しますと、米軍基地が所在する市や町の地域住民の方に、米軍に対す

る理解を更に深めていただくために、米軍関係者と地域住民が交流して良好な関係を構築することを目的とした事業で、毎年実施しています。

東北地区では、青森県つがる市に米陸軍車力通信所と青森県三沢市に米空軍三沢基地がありますので、その周辺で行っています。

【パーソナリティー】

「かかし」作りやひな祭りなどの交流ですよね。

【高橋】

はい。その通りです。

今年も7月に、「かかし」作りを通じた交流プロジェクトを青森県つがる市で行い、米軍人と地元の小学生と一緒に「かかし」を製作しました。

つがる市立車力小学校では、5年生が稲作に関する授業を進めていて、田植えや稲刈りといった体験学習が行われますので、この授業に関連して、車力通信所の米軍人と一緒に「かかし」作りを体験しながら交流するものです。

米軍人も日本の稲作文化に触れながら、地元の児童と交流が図れるとあって、毎年好評のイベントなんです。

その詳細については、連絡調整などを担当した荒井がお話します。

【荒井】

はい。私は、6月の田植え、7月の「かかし」作り、9月の表彰式、10月の稲刈りと、これまで計4回、連絡調整と通訳支援も兼ねて、児童と米軍人との交流に参加しました。

まず、最初の交流は田植えでしたが、5年生18名が田んぼに入り、機械を使わない田植えを実際にやってみるという体験学習で、これに米軍人9名がボランティアとして参加しました。小学生と一緒になって顔に泥をつけながら田植えをする米軍人は、児童達にも大人気になっていました。

参加した小学生も米軍人も、ぬかるみに足を取られて転ばないように慎重に手作業で苗を植えていました。

【パーソナリティー】

田んぼで転ぶと大変ですから、慎重になりますよね。

【荒井】

7月の「かかし」作りは東北防衛局が主催して、日米合わせて25名が参加しました。日米混合5チームに分かれて、児童が事前に準備した「かかし」のイラストを基に、日本語と英語を交えながら協力し、木の骨組みに縄や藁を巻き付けて、かかし本体を制作しました。「かかし」には、浴衣を着せてお面や小物で装飾をして、2時間ほどで個性豊かな「かかし」を完成させました。

中には、夜に見ると“ぞっ”とするような「かかし」もあって、制作したチームの児童は、「想像の100倍怖く出来たけど、楽しかった。」と感想を語っていました。

5体のかかしは、つがる市北消防署とつがる市役所のロビーに展示して、地域住民の方に投票していただいて、コンテストを行いました。

【パーソナリティー】

以前お聞きしたときは、表彰式はとても盛り上がったとのことでしたが、やはり今回も盛り上がりましたか？

【荒井】

そうですね、表彰式で、特別賞から、銅賞、銀賞、金賞の順に発表すると、児童は勿論、米軍人も楽しんでいました。

稲の方も順調に実って、10月に校外学習として稲刈りを行いました。これにも米軍人5名がボランティアで参加しました。

地元の農家さんからレクチャーを受けながら、鎌で一束一束丁寧に稲刈りを行いました。

私もやってみましたが、束をつかんで鎌で切り取る作業は意外と力が必要で、大変な作業だということがわかりました。

初めて米軍人にあっただけ、児童達は少し緊張しているようでしたが、交流の回を重ねるごとに距離が縮まり、英語でじゃんけんをしたり、はやりの日本語を米軍人に教えたりと、積極的に交流するようになっていて、まさに、日米の良好な関係が構築できたと思いました。

【パーソナリティー】

とても楽しく交流している様子がわかりました。地域を支えていく

子供達と日本に駐留する米軍が日本の稲作文化を学びながら交流して、仲を深めることは、とても素敵ですね。

【高橋】

そうですね。私たちも出来るだけ長くこの交流事業を継続していきたいと思っています。

【パーソナリティー】

もう一方の三沢基地の交流事業はどうでしたか？

【高橋】

はい。今年2月に、三沢市国際交流スポーツセンターで、パラスポーツ運動会を開催しました。

三沢市内の児童と保護者が日米混合チームを結成して、ボッチャや車椅子バスケットボール、車椅子リレーの障害者スポーツを体験しながら日米の交流を行い、とても盛り上がりました。

【パーソナリティー】

そうなんですね。スポーツ交流は勝敗を意識すると、どうしても熱くなったりすると思いますが、どうでしたか？

【高橋】

はい。スポーツですから、一生懸命にプレイして各種目とも皆さん真剣でしたが、障害者スポーツは、年齢や性別、経験などに関係なく参加することが出来ますので、勝敗というよりは純粹にスポーツを楽しんでいました。

特にボッチャは、思い通りの投球が出来るとハイタッチで喜び、失敗すれば肩を落としてがっかりするなど、一投毎に一喜一憂して勝敗が分かりやすいので、プレイヤーはもちろん、ギャラリーも楽しめる、おすすめのスポーツです。

来年の2月にも同様の計画をしていますので、機会がありましたらその様子をまたお知らせしたいと思います。

【パーソナリティー】

ひな祭りの様子はどうでしたか？

【高橋】

はい。今年の3月に、東北町小川原湖交流センター「宝湖館」で、日本伝統文化のひな祭りを開催しまして、三沢基地と東北町内の日米の児童とその保護者が、折り紙でひな人形を工作したり、琴の演奏を聞いたり、着物の試着や餅つき体験に挑戦して、楽しいひとときを過ごしました。

特に着物の試着は順番待ちの行列が出来るほど人気で、いろいろなポーズをとった我が子の姿を、何枚もスマホにおさめていました。

【パーソナリティー】

ひな祭りは楽しいですね。こちらも毎年計画されるんですか？

【高橋】

はい。限られた予算で米軍施設の周辺地域に限定しているため、大規模な事業には出来ないんですが、地域の皆さんと米軍関係者に参加してもらえるよう、プログラムを工夫しながら、毎年実施していきたいと思っています。

【パーソナリティー】

本日は、日米交流事業について、高橋さんと荒井さんからお話を伺いました。ありがとうございました。

【二人】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。